

山形県病院事業中期経営計画の取組状況の外部評価結果について

令和 4 年 3 月
山形県病院事業局

山形県では、平成27年度から平成33年度の7か年を実施期間とする「山形県病院事業中期経営計画」を策定し、「県民に安心・信頼・高度の医療を提供し、県民医療を守り支える」ことを使命（ミッション）に、「運営基盤を強化し、時代が求める医療ニーズに応える」ことを3年後の姿（ビジョン）として掲げ、医療提供体制の充実と経営の効率化に努めてきました。

令和2年度の取組みについて、「山形県病院事業中期経営計画点検・評価報告書」として取りまとめ、この内容について、さらに専門的な見地及び県民の視点から客観的な評価を行うため、外部評価委員による点検・評価を実施いたしました。

委員からは、医療機能の分化の視点や新型コロナウイルス感染症を踏まえた経営への影響などの視点から貴重な御意見や御提言をいただきました。その内容は別紙のとおりです。

いただいた御意見や御提言を参考として、今後とも一層の経営の改善に努めるとともに、県民医療を守り支える県立病院の持続可能な経営に向け、計画に掲げる目標の達成に向けて取り組んでまいります。

1 外部評価委員

氏名	団体・職名	備考
杉野 誠	山形大学人文社会科学部 准教授	書面による意見
木村 憲洋	高崎健康福祉大学健康福祉学部 医療情報学科 准教授	〃
吉岡 信弥	山形県医師会 常任理事	〃
津藤 真知子	株式会社もがみ物産協会 代表取締役	〃

2 意見等

別紙のとおり。

令和2年度 県立病院事業に対する外部評価委員の意見について

別紙

令和4年3月
山形県病院事業局

委員	意見	病院事業局の考え方	新計画への反映状況
<p>杉野 誠 委員 (学識経験者)</p>	<p>○新型コロナウイルスによる病院経営への影響 一昨年から流行している新型コロナウイルスによって、病院事業が大きな影響を受けている。例えば、受診控えにより、保険組合の医療費支払いが減少し、医療費が減少した。これは医療サービス供給側からみると、外来患者数および病床利用率の低下を意味する。患者の減少は、医業収入の大幅に減少につながる。 一方、新型コロナウイルスに感染した後の医療供給体制の整備が必要となり、協力した場合、「新型コロナウイルス感染症感染拡大防止・医療提供体制確保支援補助金」が支給された。これにより、対応できた病院では医業外収入が増加した。</p> <p>○経営の改善 昨年度は、全体の収支に対する負の要因と正の要因が存在していたが、結果として黒字化した。収支の黒字化は望まれることではあるが、中身には依然として問題がある。例えば、河北病院の状況は改善しているものの、単体では赤字となっている。競争条件や医師をはじめとする医療従事者の確保など不利な状況にあるものの、累積赤字を減らすべく病院の効率化を推し進める必要がある。ただし、非効率的な役割を担う県立病院は、「県民の安全・安心」を提供する主体でもあるため、病床数や診療科の削減を積極的に行うこともできない。</p> <p>○病院機能の分化及び社会医療法人制度の拡大 長期的には、地域全体の医療供給体制の役割を明確化し、県立病院の病院機能分化を進めていく必要があると考える。また、県立病院以外の医療機関に対して県民に対して安心感を与える役割を広げることが望ましい。1つの方法として、社会医療法人制度の拡大が考えられる。</p>	<p>○経営の改善、医療機能の分化 河北病院は、急性期医療を担うとともに、地域包括ケアや緩和ケアなどの医療も提供しており、地域の基幹病院として、質の高い信頼される医療の提供に努めております。一方で、常勤医師や人口の減少等に伴い患者数が減少し、収益は悪化しており、経営の健全化に向けた取組みは待ったなしの状況です。西村山地域全体の医療提供体制の議論の方向性に沿って、河北病院の将来像を検討してまいります。</p> <p>○社会医療法人制度の拡大 県立病院等の公立病院以外の医療機関に対して、県民が公立病院と同様な安心感や信頼性を持つことができるようにするための、社会医療法人制度の拡大については、政府の所管事項ですが、関係部局と現状及び課題を共有し、政府への提案等について検討してまいります。</p>	<p>○経営の改善、医療機能の分化 中期経営計画P23 II 2 (3) 安定した収益の確保、(4) 医業費用の効率化において、具体的な経営改善の取組みを記載しています。 また、河北病院については、中期経営計画P13 I 3 (6) エにおいて、重点課題としており、山形県立河北病院経営健全化計画においてもP25 4 (8) ③再編・ネットワーク化で、西村山地域全体の医療提供体制の議論の方向性に沿って、河北病院の将来像を検討することを記載しています。</p>
<p>木村 憲洋 委員 (有識者)</p>	<p>○3病院 中央病院、新庄病院、こころの医療センターについては、問題ないと考えている。</p> <p>○河北病院 河北病院については、地域で求められている医療機能について、近隣の自治体立の医療機関と協議すべきと考える。また、診療科などについては、精査することにより中央病院と役割分担をすることで経営の効率化を行うべきである。</p>	<p>○河北病院 河北病院が所在する西村山地域における医療提供体制について、県関係部局と連携して、今後、地域内の市町村等と議論を始める予定であり、その内容を踏まえて、河北病院の医療機能や病床数等について、見直しを行う予定です。 並行して、中央病院との役割分担の見直しについても対応してまいります。</p>	<p>○河北病院 山形県立河北病院経営健全化計画においてP25 4 (8) ③再編・ネットワーク化で、西村山地域全体の医療提供体制の議論の方向性に沿って、河北病院の将来像を検討することについて、記載しています。</p>
<p>吉岡 信弥 委員 (医療関係者)</p>	<p>○今後の経営の見通し 経常収支の黒字は、新型コロナウイルス感染症に対する国からの補助金、つまり、医業外収入によるものである。医業本来の外来患者数、入院患者数は減少しており、少子高齢化による年代別人口の変化と絶対的な人口減少などから、今後、大幅な患者数の増加は見込めないものと思われる。</p> <p>○県立病院の立ち位置の再考 また、患者の医療を求めて動く範囲は広域化しており、県立病院には高度急性期・高度専門医療を担う必要があり、それも、ヘリや高速道路を使った広域化が求められていくことであろう。逆に言えば、中途半端な医療提供を行う県立病院は不要だと考える。地域医療を担うなど、本来は民間病院や開業医において行われるべきことであり、医療提供体制の専門化・高度化・集約化が求められている今、それぞれの医療圏における県立病院の立ち位置を再考すべき時だと考える。</p>	<p>○県立病院の立ち位置の再考 県立病院は、県民に安心・信頼・高度の医療を提供し、県民医療を守り支えることを使命として、病院事業を運営しております。今後も県立病院の役割を踏まえた医療の提供を行いながら、一方で、将来の医療需要を考慮し、本県のそれぞれの医療圏における県立病院の機能分化や、地域における医療供給体制の役割の見直し等についても、今後の地域医療構想会議における議論を踏まえ、検討してまいります。</p>	<p>○県立病院の立ち位置の再考 中期経営計画P18 II 1 (2) 大学・医療機関等との連携の推進や、P23 II 2 (3) ア病院の役割に応じた診療機能の明確化及び医療提供体制の見直しにおいて、開業医等と県立病院の連携と機能分担の推進について記載しています。</p>

委員	意見	病院事業局の考え方	新計画への反映状況
津藤 真知子 委員 (住民代表)	<p>○経営の現状（河北病院） コロナウイルスに係る補助金等の受入を除けば、赤字が続いている事を受け、その重点課題として、（ア）～（エ）の4点を掲げ、運営していく事を明確化している事は、大変良い事と思います。河北病院への着手は、様々な意見、地域医療における県としての役割等で、困難なこともあろうかと思いますが、経営の厳しさを回復させて行くには絶対重要と感じます。あり方検討必要を、まず実行したら良いと思います。</p> <p>○新庄病院 新庄病院の新旧対照表で、育成・確保という目標を掲げておりますが、その目標が令和4年から7年まで向上していない数値なのは何故だろうと感じました。新庄病院の現状と課題が的確に記されており、果たすべき役割に向かって、実現していけたら素晴らしい病院となり、期待しています。</p> <p>○県立病院の経営全般 県全体のこれからの病院は、健全経営は厳しいものがあると思いますが、それぞれの立地条件、地域性、周りの環境を踏まえ、強い部分をもっと磨き上げ、削除する部分は穏やかに失くし、患者さんが自慢出来るような、選ばれる特徴ある病院が経営につながると思いますが、カフエ等、外部資金を稼ぐ事も必要かもしれません。 「安心・信頼・医療で県民を守って頂く」このミッションの上で、県立病院を評価して、課題を洗い出し、実現できる計画と思います。</p>	<p>○経営の現状（河北病院） 河北病院は、急性期医療を担うとともに、地域包括ケアや緩和ケアなどの医療も提供しており、地域の基幹病院として、質の高い信頼される医療の提供に努めておりますが、一方で赤字経営が続いており、経営の健全化に向けた取り組みは待ったなしの状況です。西村山地域における医療提供体制については、県関係部局と連携して、今後、地域内の市町村等と議論を始める予定であり、その内容を踏まえて、河北病院の医療機能や病床数等について、見直しを行ってまいります。</p> <p>○新庄病院（次期計画における新庄病院の育成・確保の目標値） 研修医の受入については、医師確保は喫緊の課題でありますので、直近の実績（令和2年度：2人）を1人でも多く研修先として選んでいただけるよう、魅力度アップに取り組みます。なお、目標値は定員4人のフルマッチとしております。 認定看護師については、ご指摘を踏まえ、再度、検討した結果、目標人数を令和6年度以降、1人増の12人としました。 コメディカルについては、これまで、各部門で資格取得者数の増加に取り組み、令和2年度52人となりましたが退職や人事異動などによる減少が見込まれますので、現状を維持できる数値としたものです。なお、今後、新たに制度化される資格等に対して、積極的に取得してまいります。</p> <p>○県立病院の経営全般 県立病院の役割を踏まえた医療の提供を継続しながらも、経営改善に向けて、既存の取り組みの枠を超えた新たな収益確保の取り組みについて検討し、果敢に取り組んでまいります。</p>	<p>○経営の現状（河北病院） 山形県立河北病院経営健全化計画 P25 4（8）③再編・ネットワーク化において、西村山地域全体の医療提供体制の議論の方向性に沿って、河北病院の将来像を検討することを、記載しています。</p> <p>○新庄病院（次期計画における新庄病院の育成・確保の目標値） 中期経営計画P51 III＜新庄病院＞2（2）ア医療を支える人材の確保、イ高度・専門医療を担う人材の育成に記載しています。</p> <p>○県立病院の経営全般 中期経営計画P23 II 2（3）安定した収益の確保、（4）医業費用の効率化において、具体的な経営改善の取り組みを記載しています。</p>